

らくしゅう式  
学習型・脳機能訓練

音読編 I

ゆうゆう

# らくしゅう式 学習型・脳機能訓練

## ゆうゆう 音読編 Ⅰ

### 目次

			ページ量
ゆう音読 1 ゆう音読 1-記憶	～	ゆう音読 7 ゆう音読 7-記憶	・音読題材7つ 14p
ゆう音読 8 ゆう音読 8-なぞり	～	ゆう音読 13 ゆう音読 13-なぞり	・音読題材6つ 12p
ゆう音読 14 (イメージ) ゆう音読 14-記憶	～	ゆう音読 16 (イメージ) ゆう音読 16-記憶	・音読題材3つ 6p
ゆう音読 17 (唱歌) ゆう音読 17-記憶	～	ゆう音読 22 (唱歌) ゆう音読 22-記憶	・音読題材6つ 12p
			<hr/> 44p

対面式で行ないます。

参加者の希望や状態にそって教材を選びます（1回2～3p）。



こえに出してよみましょう。  
 1回目：はぎれよく、すらすらと  
 2回目：いみをかんがえながら  
 3回目：ひとによみきかせるように

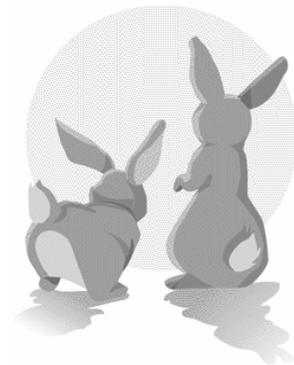
まんげつ よる  
 満月の夜、

つき  
 月のうさぎが

もちをつく。

ぺったん、ぺったん。

あき よかぜ むし こえ  
 秋の夜風と虫の声。



もういちど、こえに出してよみましょう。

うさぎ

秋 あき

声 こえ

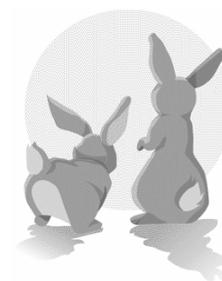
あき

の夜風と虫の

こえ

。

月の つき



こえに出してよみ、にもじをかきましょう。

こえに出して よみましよう。  
 1回目：はぎれよく、すらすらと  
 2回目：いみをかんがえながら  
 3回目：ひとによみきかせるように

「あしたは

ピクニックなんだ。」

「いいねえ。どこへ

でかけるんだい？」

「山やまのふもとの林はやしだ

よ。」

「いい運動うんどうだね。」

気きをつけて

いってらっしゃい。」



もう一度、声に出して読みましょう。

気き

いってらっしゃい



いい運動うんどうだね。

きをつけて

。

こえに出してよみ、にもじをいれましょう。

こえに出して よみましよう。  
 1回目：はぎれよく、すらすらと  
 2回目：いみをかんがえながら  
 3回目：ひとによみきかせるように

こが まち ある  
 木枯らしがふく街を歩く。

の  
 ベビーカーに乗せられた

あか  
 赤ちゃんは、ぐっすり

ねむ  
 眠っている。

ちい あか  
 小さな 赤いほつぺが

こころ なご  
 心を和ませてくれる。



もういちど、こえに出してよみましょう。

冷

つめ

温

あたた(かい)

あたた

か  
そ  
う  
な  
赤  
ち  
ゃ  
ん  
。

あか

つめ

たい  
木  
枯  
ら  
し  
と

こ  
が



こえに出してよみ、にもじをかきましょう。

こえに出して よみましよう。

1回目…はぎれよく、すらすらと

2回目…いみをかんがえながら

3回目…ひとによみきかせるように

たちあ

サテお立会い！

てまえ

手前テマエに

と

取りいだしたるは

つくばさんめいぶつ

まぶつ

筑波山名物のガマの油。

もじ

ガマと申してもただのガマとガ

ちが

マが違う！おんばオンバこという

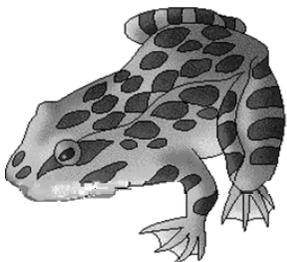
つゆくさ

そだ

しろく

露草をくろクロうウて育つた四六の

ガマだ！



こえに出してよみ、にもじをかきましよう。

サテお立

たちあ

い！ここに

とりいだしたるは

つくばさんめいぶつ

筑波山名物ガマの

あぶら

。

会

あ

油

あぶら

もういちど、こえに出してよみましょう。

こえにだして よみましよう。

1 回目：はぎれよく、すらすらと

2 回目：いみをかんがえながら

3 回目：人によみきかせるように

おどろ

もも

きさんしよ

き

驚き桃の木 山椒の木

しやりき

くるまひ

あたりき車力よ車曳き

あり

たい

いもむし

くじら

蟻が鯛なら芋虫や鯨



こえに出してよみ、□にもじを入れましょう。

おどろき



もも

の木

き

さんしよの木

き

あたりき



しゃりきよ

くるま  
車ひき



桃

もも

車力よ

しゃりき

もういちど、こえに出してよみましょう。

こえに出して よみましよう。

1回目：はぎれよく、すらすらと

2回目：いみをかんがえながら

3回目：うたうように

はら

わたの原

い

こぎ出でてみれば

ひさかた

久方の

くもい ごう

雲るにまがふ

おき しらなみ

沖つ白波



口を大きくあけて、大きな声で謳いあげるように  
詠んでみましょう。  
「ワタノハラアーーー（語尾の音をあげて）」

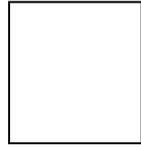
もういちど、こえに出してよみましょう。

原

はら

沖

おき



おき

つ白波

雲くもみいにまがふ

久方ひさかたの

こぎ出いでて見みれば

わたの



はら



こえに出してよみ、□にもじをかきましょう。

こえに出して よみましょう。

1回目：はぎれよく、すらすらと

2回目：いみをかんがえながら

3回目：うたうように

がた

みじか

あし

なにわ瀉

短き芦の

ま

ふしの間も

よ

あわでこの世を

すぐしてよとや

いせ

伊勢



口を大きくあけて、大きな声で謳いあげるように  
 詠んでみましょう。  
 「ナニワガターー（語尾の音をあげて）」

もういちど、こえに出してよみましょう。

間 ま

世 よ

すぐしてよとや

あはでこの  よ を

ふしの  ま も

なにわ潟 がた 短き芦 みじか あし の



こえに出してよみ、にもじをかきましょう。

こえに出して よみましよう。

1回目：はぎれよく、すらすらと

2回目：いみをかながえながら

3回目：人によみきかせるように

すいせん はな

水仙の花のよいかおり。

ひあた

へい した

日当たりのよい塀の下に

なら さ

並んで咲いている。

ある

かぞ

歩きながら数えてみた。

1、2、3、4、…

きんじょ ごとう

あら、近所の後藤さん。

…いくつまで

かぞえてたっけ…？



こえに出してよみ、もじをなぞりましょう。

並ならんで咲さいている

すいせん

水仙をかぞえる。

1、2、3、4。



もういちど、こえに出してよみましょう。

こえに出して よみましよう。  
 1回目…はぎれよく、すらすらと  
 2回目…いみをかんがえながら  
 3回目…人によみきかせるように

みち

道に 落ちた枯葉に

かれは

どこから きたのか

ももいろ

はな

桃色の花びらも

まじっている。

あつ

ほうきで 集めたら

に

あわてたアリが 逃げていった。



こえに出してよみ、もじをなぞりましょう。

かれは

枯葉をほうきで

あつめる。



もういちど、こえに出してよみましょう。

こえに出して よみましよう。  
 1回目…はぎれよく、すらすらと  
 2回目…いみをかんがえながら  
 3回目…人によみきかせるように

風邪かぜをひいた。

熱ねつが 三十七度六分さんじゅうしちどろくぶある。

シヨウガ湯ゆを飲のんで

身体からだを あたたためよう。



こえに出してよみ、もじをなぞりましょう。

かぜをひいて

ねつがでた。

シヨウガ湯ゆをのんで

あたたまるう。



もういちど、こえに出してよみましょう。

こえにだして よみましよう。

- 1 回目…はぎれよく、すらすらと
- 2 回目…いみをかんがえながら
- 3 回目…人によみきかせるように

いぬ ある

犬も歩けば ぼうにあたる

やま

ちりも つもれば 山となる

たな

棚からぼたもち



もういちど、こえに出してよみましょう。



棚たなから ぼたもち

犬いぬもあるけば ぼうにあたる

こえに出してよみ、もじをなぞりましょう。

こえに出して よみましよう。  
 1回目：はぎれよく、すらすらと  
 2回目：いみをかんがえながら  
 3回目：うたうように

しろかね

銀も

くがね

たま

なに

金も玉も

何せむに

たから

まされる宝

こ

子にしかめやも

やまのうえの

山上おくら



口を大きくあけて、大きな声で謳いあげるように  
 詠んでみましょう。

「シロカネノオーー」（語尾の音をあげて）」

もういちど、こえに出してよみましょう。



子にしかめやも

何<sup>なに</sup>せむに まされる宝<sup>たから</sup>

しろかねも くが<sup>く</sup>かねも玉<sup>たま</sup>も

こえに出してよみ、なぞりがきをしましょう。

こえに出して よみましよう。  
 1回目：はぎれよく、すらすらと  
 2回目：いみをかんがえながら  
 3回目：大きな声で歌いましよう。

ぽっ ぽっ ぽっ

はと

鳩ぽっぽ

まめ

豆がほしいか

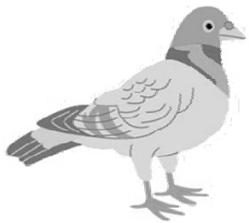
そらやるぞ

なかよ

みんなで仲良く

たこ

食べに来い



文部省唱歌

もういちど、こえに出してよみましょう。

そ	豆 <sup>まめ</sup>	鳩 <sup>はと</sup>	ぽ
ら	が	ぽ	っ
や	ほ	っ	ぽ
る	し	ぽ	っ
ぞ	い	ぽ	
	か		



こえに出してよみ、なぞりがきをしましょう。

こえに出して よみましよう。  
 1回目：はぎれよく、すらすらと  
 2回目：いみをかんがえながら  
 3回目：人によみきかせるように

女の子が 二人。

ひとりは 黄色い

手提げをもち、

もうひとりは

赤い靴をはいている。

おしゃべりしている。



情景をイメージして  
 でてきた単語を  
 覚えましょう。

女の子、黄色、赤色

女の子 おんなこ

男の子 おとこ

ベンチ

黄色 きいろ

青色 あおいろ

赤色 あかいろ

リュック  
けんか

でてきたことばに○をつけましょう。

こえに出して よみましよう。  
 1回目：はぎれよく、すらすらと  
 2回目：いみをかながえながら  
 3回目：人によみきかせるように



やおや、スーパー、

あか とりい

赤い鳥居、

はし

橋をわたると

がっこう しろ こうしゃ

学校の白い校舎。

わ や

そのむこうが我が家。

情景をイメージして  
 でてきた単語を  
 覚えましょう。

やおや、赤、白、橋

白 しろ

さかなや

赤 あか

やおや そうじ

橋 はし

青 あお



でてきたことばに○をつけましょう。

わからないときは  
前のページにもどって  
読み直しましょう。

こえに出して よみましよう。

- 1回目：はぎれよく、すらすらと
- 2回目：いみをかながえながら
- 3回目：人によみきかせるように

みなと ふね

港から船がでる。

とお うみ りょう

遠くの海へ漁にゆくのだ。

はは

母とぼくは

ちち て

父に手をふる。

ちち あか やきゅうぼう

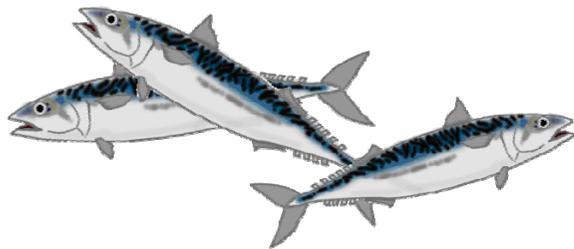
父の赤い野球帽が

み

見えなくなるまで

て ふ

いつまでも手を振った。



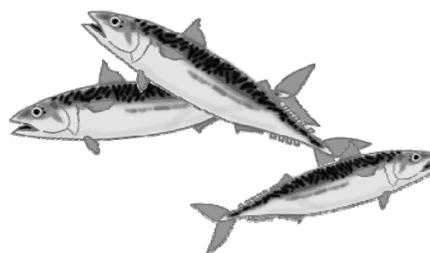
情景をイメージして  
でてきた単語を  
覚えましょう。

船、ぼく、赤い、手

手 <sup>て</sup>	赤 <sup>あか</sup> い	妹 <sup>いもうと</sup>	青 <sup>あお</sup> 空 <sup>ぞら</sup>
ト ラ ッ ク		ぼ く	船 <sup>ふね</sup>

でてきたことばに○をつけましょう。

わからないときは  
前のページにもどって  
読み直しましょう。



こえに出して よみましよう。

1回目：はぎれよく、すらすらと

2回目：声にだしてうたいましよう

3回目：手指の動作をくわえましよう

あか とり

『赤い鳥小鳥』作詞 北原 白秋

赤い鳥ことり

あか

なぜなぜ 赤い

あか み

赤い実を たべた

しろ とり

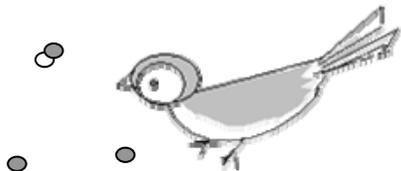
白い鳥ことり

しろ

なぜなぜ 白い

しろ み

白い実を たべた



手指の動作：うたいながら、グー、チョキ、パーの動作を  
曲の拍子にあわせて、連続して行ないます。(片手、両手は自由)



あか  
とり  
赤い鳥 ことり

あか  
なぜなぜ赤い

あか  
い  
み



こえに出してよみ、もじをかきましよう。

あか  
み  
赤い実をたべた

もういちど、こえに出してよみましょう。

こえに出して よみましよう。

- 1 回目…はぎれよく、すらすらと
- 2 回目…声にだしてうたいましよう
- 3 回目…手指の動作をくわえましよう

『証城寺の狸ばやし』 作詞 野口 雨情

しょう しょう しょうじょうじ  
証 証 証城寺、

しょうじょうじ にわ

証城寺の庭は

つきよ みなで

つつ 月夜だ 皆出て

こい こい こい こい

ともだち

おいらの友達ア

ぽん ぽん ぽんの ぽん



『日本百名歌』主婦の友社

手指の動作…うたいながら、グー、チョキ、パーの動作を  
曲の拍子にあわせて、連続して行ないます。(片手、両手は自由)

もういちど、こえに出してよみましょう。

つきよ  
月夜



みな  
皆



しょうじょうじ  
証城寺の庭は  
にわ

つ  
つ

つきよ

みな  
で  
出て  
こい

こい  
こい

だ

こえに出してよみ、□にもじを入れましょう。

こえに出して よみましよう。

1回目：はぎれよく、すらすらと

2回目：声にだしてうたいましよう

3回目：手指の動作をくわえましよう

ゆうぞら

夕空はれて あきかぜふき

お お すずむし

つきかげ落ちて 鈴虫なく

とお こきよう

おもえば遠し 故郷のそら

ちちはは

ああわが父母 いかにおわす

「故郷の空」 作詞 大和田建樹



『日本百名歌』主婦の友社

手指の動作：うたいながら、グー、チョキ、パーの動作を  
曲の拍子にあわせて、連続して行ないます。(片手、両手は自由)

もういちど、こえに出してよみましょう。

故郷

こきょう

父母

ちちはは

いかにおわす

ああわが

ちちはは

のそら

こきょう

おもえば

とお

遠し



こえに出してよみ、もじをかきましょう。

こえに出して よみましよう。

1回目：はぎれよく、すらすらと

2回目：声にだしてうたいましよう

3回目：手指の動作をくわえましよう

『もみじ』 作詞 高野 辰之

あき ゆうひ

# 秋の夕日に

て やま

## 照る山 もみじ

こいも うすいも

なか

かずある中に

まっ

## 松をいろどる かえでや

やま

つたは 山のふもとの

すそもよう



『日本百名歌』 主婦の友社

手指の動作：うたいながら、グー、チョキ、パーの動作を  
曲の拍子にあわせて、連続して行ないます。(片手、両手は自由)

こえに出してよみ、□にもじをいれましょう。

あきの ゆうひ

に

て  
照る山 もみじ  
やま

こいもうすいも

かずある中なかに



秋の夕日

あき ゆうひ

もう一度、声に出して読みましょう。

こえに出して よみましよう。  
 1回目：はぎれよく、すらすらと  
 2回目：声にだしてうたいましよう  
 3回目：手指の動作をくわえましよう

『早春賦』 作詞・吉丸一昌

はる な  
 春は名のみの 風の寒さや

たに おも  
 谷のウグイス 歌は思えど

とき た  
 時にあらずと 声も立てず

とき た  
 時にあらずと 声も立てず



『日本百名歌』主婦の友社

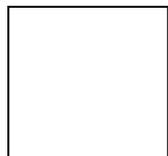
手指の動作：うたいながら、グー、チョキ、パーの動作を  
 曲の拍子にあわせて、連続して行ないます。（片手、両手は自由）

もういちど、こえに出してよみましょう。

名 な

谷 たに

うたは思えど おも



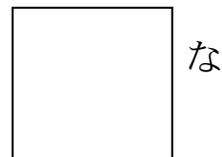
たに

のウグイス

風の寒さや かぜ さむ



春は はる



な

のみの

こえに出してよみ、もじをかきましょう。

こえに出して よみましよう。

1回目：はぎれよく、すらすらと

2回目：声にだしてうたいましよう

3回目：手指の動作をくわえましよう

「うみ」

作詞・林 柳波

らくしゅう©

うみは ひろいな

おお

大きいな

つき

月が のぼるし

ひ

日が しずむ

おお

うみは 大なみ

あおい なみ

ゆれて どこまで

つづくやら



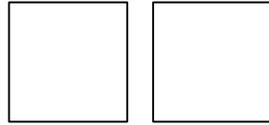
『日本百名歌』主婦の友社

手指の動作：うたいながら、グー、チョキ、パーの動作を  
曲の拍子にあわせて、連続して行ないます。(片手、両手は自由)

もう一度、声に出して読みましょう。

月 つき

日 ひ

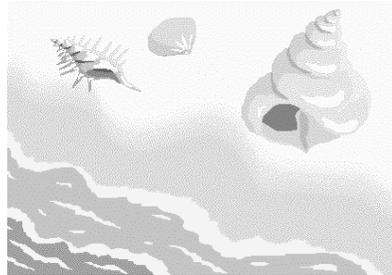


が が

しずむ のぼるし

おお  
大きいな

うみは ひろいな



こえに出してよみ、□にもじをいれましょう。

# 音読編 I

らくしゅう式  
学習型・脳機能訓練

